

令和2年度第1回開成町総合教育会議 議事録

日 時：令和2年9月30日（水） 14時53分～16時05分

場 所：開成幼稚園

出席者：（町）府川町長

（教育委員会）井上教育長、村岡委員、露木委員、上野委員、本澤委員

（事務局）山口企画政策課長、岩本学校教育課長、尾川副主幹、遠藤主任主事

（オブザーバー）秋谷企画総務部長、遠藤教育委員会事務局参事

（説明員）亀井町民福祉部長、田中子育て健康課長

町長あいさつ

皆さん朝から開成幼稚園でいろいろとされていると思う。幼稚園に来るのも久しぶりのような気がする。今年は卒園式も入園式もないし、夏まつりもない。運動会はやってもらえるようだが、子どもたちの心に残るものがなかなかできないというのは、先生方も複雑な思いがあると思う。

コロナが収束しないと今まで通りにはいかないし、完全に収束したとしても今までのとおりのことができるのか分からない。来年度に向けて町としても子どもたちだけではなく、先生方の負担が少しでも減るように様々な予算化をしている。国の方から65歳以上のインフルエンザ予防接種無料について、重症化を防ぐため、町としても単独で乳幼児と妊婦については無償化の方向で考えている。幸いにして人口が増え子どもの数が増えている。子どもたちの元気な声が響き渡る元気なまちを目指していきたい。子育て支援策や学校教育の環境を良くしていくのは大事なのでこれからも力を入れていきたい。

本日は議題が2つある。1つ目は学校が終わった後の子どもたちの居場所ということで、学童保育をしているが、どんぐり会館と南小学校を間借りしているが、良い環境ではないと考えている。今年度実施設計をして南小学校の敷地をお借りして120人定員の常設型の施設を作っていこうということになった。もう1つは、コロナ禍で学校・園、それぞれ課題を抱えていると思うが、来年度予算に向けて、情報共有、意見交換ができれば良いと思っている。

教育長あいさつ

町長を始め、学校教育にご支援をいただき感謝申し上げます。日頃から教育に心を割いていただいている。とはいえ課題は山積している。子どもたちの数が増えている開成町だからこその悩みもある。その中で支援員をより多くつけていただいたり、学校施設に予算をかけていただいたり、事務局職員を増としていただいたり、人の配置について特に配慮をいただいている。

今後も子どもは増加傾向と聞いているが、多様な子どもが増えているというのが肝で、そこにどのように対応していくのが課題だと考えている。

協議事項

(1) 開成南小学校区の学童保育施設の整備について

田中子育て健康課長より資料に基づき説明。

村岡委員

将来的に小6までの受入れを考えているようだが、定員120人で問題はないか。また、積算の根拠があれば教えていただきたい。

田中課長

現状は小4まで。国は小6まで検討するようにとっている。アンケート調査等で受け入れ態勢を確認していく。子ども・子育て支援計画の策定時にも意見を頂いたが、実際には保護者が希望していても子どもたちは希望しないことも多いので、慎重に考えていきたい。

教育長

放課後児童プランと放課後子ども教室の一体的な実施について、同一小学校内であれば可能ということだが、新たな施設内でなければならないのか。それとも、同じ小学校の敷地内であれば別場所でも一体とみなしてもらえるのか。運営委員会を作ったとしても、指導者の方でも折り合える部分というのがあるのかと思う。

田中課長

一体型をどう読み取るのかということだが、特に同じ場所でなければ一体型とみなさないというのではなく、企画の段階、運営する立場の方が役割を担って理解しながら一部でも共有するものがあれば一体型として捉えてよいものと考えている。開成小学校の社会教育としてやっているものをメインで実施したとしても、学童と一部でも交流できるのであれば一体型として捉えることができると思う。

教育長

現在はコロナの関係でやっていないが、放課後子ども教室は毎週水曜日に開催している。

町長

参加者はどれくらいか。

教育長

多い時は100人ほどいる。全校生徒の6分の1。

町長

放課後子ども教室と学童を利用している生徒は別の生徒なのか。

教育長

別の生徒もいるが、放課後子ども教室に出してから学童に参加する生徒もいる。

田中課長

南小学区は放課後子ども教室の会場が学童と同一なため、学童に行く子は放課後子ども教室を経由して参加している。開成小は第4学童として占有施設があるので子どもが参加したい方を選択できる。

上野委員

今まで南小学校区はどんぐり会館と開成南小学校の2施設で学童保育を実施しており、放課後子ども教室がスタートしたときに、南小の学童に参加していた子どもは必ず放課後子ども教室に参加しなければならないのかと思っていた。また、保護者としても窓口が分からずどこに相談すれば良いのかと感じていた。これから同じ学校内でやっていただけることになればその辺りの不安も解消されると思う。

田中課長

放課後子ども教室には運営委員会があり、PTA、小学校の代表者で構成され、地域・学校を巻き込んだ形での位置付けがある。これから両事業を一体的に実施していくにあたって、教育委員会と調整を図り企画の段階から連携していきたい。

(2) 令和3年度予算編成に向けた意見交換について

学校教育課 尾川副主幹から説明

町 長

町民センターの改修については、コロナの関係で一時的に執務室にしていたこともあり来年度に遅らせたので予め承知してほしい。

1 G I G Aスクール構想の本格導入について

町 長

全国的に各自治体が様々な動きを見せ始めてる。町としても動向を注視していかなければならないが、現在の町の状況は。

教育長

数的には貸し出しも可能な台数は確保している。懸念事項として、貸し出ししたが戻っ

てこなくて授業中に使えなかった、というケースが近隣ではあったようだ。

また、全学級で一斉に持ち上げたところ、容量が足りずフリーズしてしまったという事例もあるようだ。開成町ではそうしたことがないような設計にはする予定である。

まずは、貸し出しを前提にするのではなく、授業でしっかり活用できることが重要だと考えている。

全国規模では、オンライン授業を実施しても、もう一度授業をやらなければいけなくなってしまったという事例もたくさん聞いている。遠隔であっても授業として成立しなければ二度手間三度手間になってしまう可能性がある。いわゆるICTの支援者を確保して環境整備するつもりである。

町 長

議会でも、こういうものを整備すると様々なシーンで活用できるイメージがあるが、実際は課題もあることから、効果検証しながら進めていかないといけない。

本澤委員

今後、コロナの第2波、第3波が発生した場合、再度の臨時休校等の可能性もある。自宅で授業を受けられる環境整備をしていかないといけない。LAN環境がない家庭もあると思うので、ポケットWi-Fiを町が貸し出す等の準備をしないといけない。

岩本課長

タブレット1人1台化が配備できれば、組み込んであるソフト等を使ってすぐにでもオンライン授業ができる環境は整えてある。

教育長

物理的な環境は整っており、チャレンジはすぐにできる。ただ授業の「質」をどう高めるかが課題だと考えている。端末の操作方法や、オンライン授業の課題（例：授業態度の指導や、生徒たちの学力差。）をクリアし、楽しい授業にしていきたい。そのために支援員や専門員を迎え入れたり、校内研修をしたりする等、教育委員会としても可能な限りの支援をしていきたい。

岩本課長

いきなりオンライン授業はやる計画は現時点ではないが、1人1台のタブレットをどう授業に組み込んでいくかについて、これから全ての小中学校の先生にヒアリングを行い、教科ごと、先生ごとに、考えられる活用方法を検討していく。

露木委員

オンライン授業の環境がきちんと整備されることはありがたいが、それに伴い、現場の先生方は、これまでの授業のやり方や環境の変化に対応する必要がある。当然、得意な先

生、不得意な先生もいる。もちろん、先生方もある程度、効果的な活用方法等を勉強しなければならないと思う。しかし、先生方にお任せではなく、専門員を配置し、機会あるごとに先生も学べる、それを子どもたちに返せる仕組みがあると良い。専門家による実地研修等を開催してもらえればと思う。

各家庭のLAN環境を整えるということも良いことだが、関心度の高い家庭もあれば、経済的事情や保護者の関心度によっては、そうではない家庭もあると思う。そういう点も踏まえたうえで、子どもたちが無理なく使えるような環境を与えることが大事ではないかと思う。

町 長

ICTの専門員を配置するとなった場合、自治体間で取り合いになることはないか。

教育長

その部分については広域連携ができないか検討している。

岩本課長

今回、1人1台配備するタブレット端末は学校の授業用としての活用を想定しており、家庭にスマホやタブレット端末等の環境がある家庭はそれを使ってもらおう。インターネットを含め環境がない家庭には、例えば学校のパソコン教室にあるタブレット端末を貸し出していく仕組みにしていきたい。

2 教員の働き方改革にかかる取組について

本澤委員

部活動の外部指導員の話は令和元年度中の動きがあまりなかった。学校からの要請があれば取組むという書き方だったと記憶している。

教育長

文科省は、令和5年度から土日の部活動について、教員は手を退くと発表している。先生方が土日に部活動をやりたい場合は、別途登録・申請が必要になる。一方、平日は教育活動の一環として従来どおりの形を維持する。ただ、大会は土日の開催が多く、そのあたりは文科省も方法を含めて実証的な実験をしていくとのこと。

今までも開成町は球技を中心に外部の方に依頼したケースもある。ただ、生徒たちに暴力行為等のアンケート調査を毎年実施した中で、部活動で激しい言葉で罵られて嫌だったという意見があった年もあったようだ。

学校としては外部の方に依頼することはやぶさかではないが、教育的な配慮も含めて選定しなければならないという苦勞を考えると、それなら先生が自らやっしまおうという部活もあったと聞いている。

また、開成町に限った話ではないが、部活動は経験者ではない先生方が指導することも多々ある。その辺りも含めて保護者や子どもたちにどこまで理解してもらえるのかということではないかと思う。

村岡委員

外部指導者が望ましいと思うが、地域に人材がない。そういう意味では、お金はかかるだろうが、スポーツクラブ等の指導者に来てもらうということも1つの方向性ではないか。

本澤委員

部活動をどう考えるのかということだと思う。競技として成績を重視するのか、教育の一環として考えるのかということ。保護者や生徒によっても考え方はバラバラだと思うので、その辺りのバランスをどう取るのかが重要だと思う。

教育長

本澤委員のおっしゃるとおりで、文化スポーツ的に捉えるのか、競技スポーツ的に捉えるのかによっても方向性は変わってくるが、多くの保護者は、優勝や入賞といった成績を褒めたたえる傾向が強い。ただ、教育的に配慮している指導者は、日々努力してる人を試合に出すよという方もいる。

3 文命中学校大規模改修工事について

村岡委員

上限というのは、これ以上の金額は出せません。という意味なのか。

秋谷部長

総合計画の中で、空調設置工事を含め総工事費3億円という計画を立てていた。その分を差し引いた金額ということである。

村岡委員

なぜ上限があるのかなと思っていたので聞いた。

4 コロナウイルス感染症対策について

質問なし。

5 園・学校の生活支援員の配置について

上野委員

先生方が多様な生徒たちに対応するためには、生徒たちと向き合う時間を増やすために業務アシスタントを配置するのはどうか。各校に常駐して、コピー等の雑務をやってもらえば先生の負担も軽減できると思う。

教育長

コロナ禍で県教育委員会がスクールサポートスタッフ配置の予算をつけてくれている。開成町でも既に6人ほど面接を終えている。

学校現場では、多様な子どもたちの増加に加え、コロナ禍であるために「家族が熱を出したので念のために休みます。」というケースが多々あり、校長や教頭が授業に出る職員状態である。そういった時にスクールサポートスタッフが入れば、ずいぶんと学校側も安心できるのかなと思う。ただ、義務教育ではないことから幼稚園はこの制度から外れている。

16時まで一時預かり保育をやっているが、園教諭の勤務時間は16時30分までで、全員が学級担任である。そのような中で、園児が帰った後に16時まで預かり保育をやると勤務時間を超えている状態。預かり保育の専任がいるといいなという話は出ている。

村岡委員

働き方改革の点から言えば、月1回安全点検をやっていると思うが、その辺も専門業者をお願いし、先生方の負担を減らしてあげたい。予算の課題はあると思うが、子どもたちのケガ防止にも繋がるので、相応の人員配置は必要だと思う。もちろん先生方が自分たちの目で点検することも必要なことだとは思う。

秋谷部長

今もまず先生が点検をして、その後問題があれば専門業者を呼んで確認するという段階を踏んでいると思う。最初から委託するとなると学校施設全般を点検できる業者がいるかは不明だが、そもそも頼めるかという問題もあると思う。その辺りは検討課題とさせていただきたい。

上野委員

学校敷地が広いのでPHS等、携帯電話を用意したらどうか。緊急連絡用だったり教育活動用だったり。先生の代わりに生徒たちが職員室等に伝えに行くのは大変、かつ、時間もかかる。横浜市ではLINEワークスを活用している。

岩本課長

そうした端末を持たせたときに、セキュリティポリシー等を作っていく必要がある。まずは、今回配備するタブレットからどう派生させるかということで考えていきたい。

村岡委員

今の話は、学校内での緊急事態にいかに対応するかということ。例えば、緊急用のブザーを付ければ学校や生徒の安全確保に繋がると思う。

6 町民センター及び保健センターの改修について

本澤委員

町民センターの改修工事の内容が見えてこない。

遠藤参事

1階については、保健センターの機能を元に戻すとともに、機能回復訓練室をキッズコーナーにする。

2階の教育委員会事務局、教育長室、福祉課があった場所は、名称は未定だが、町民活動サポートセンターとする。

3階の図書室については、詳細は未定だが、入口の自動ドア化、雨漏り等の基本的な施設改修、視聴覚室を学習コーナーにするというイメージ。これから設計に出し、10月中旬に契約ができればと思っている。これにより新年度予算の具体的な工事費が決まってくる。

本澤委員

新庁舎の1階部分もどのような使い方をするのか見えてこない。

秋谷部長

今の想定では、東側は期日前投票所や確定申告の相談コーナーとして活用、西側は様々な団体に展示等をしてもらうことも考えている。コロナ次第ではあるが、年明けから準備に入り、新年度に間に合えばと考えている。

教育長

情報提供として今年度の幼小中の園児児童生徒数について申し上げる。

開成幼稚園 : 217名 (公立県下1位)

開成小学校 : 509名 (1市5町3位)

開成南小学校 : 631名 (2市8町1位)

文命中学校 : 510名 (1市5町1位)

町長

他にご意見等もないようなので、これで第1回総合教育会議を終了する。

以上